

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和4年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2022-1	道路整備による走行時間短縮便益等を把握する手法についての技術研究開発	東京大学大学院 教授 加藤 浩徳	A
<p><研究の概要></p> <p>我が国の道路事業を対象に、事業評価手法の改善を目指し、時間価値等の原単位の設定手法および交通量推計の手法について検討し、我が国の事情に見合った新たな事業評価手法の提案を行うことを目的とする。</p> <p><中間評価結果></p> <p>実務上の課題をヒアリング等でさらに明らかにし、本省と引き続き連携しつつ研究を進めることにより、現場での事業評価の実務を踏まえた便益把握手法等を開発されることを期待する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 実務者インタビューを着実に実施するとともに、当初計画では2年目に実施予定の貨物交通の検討（現状と今後の変化に関する検討、時間価値の試算）についても研究計画に明確に位置付けた上で着実に実施していただきたい。2. 道路整備による誘発交通への影響について、過去の道路整備ケースを対象とした統計的因果推論によるインパクト分析を行うことが、どのように「誘発交通等を考慮した交通量推計手法の開発」に繋がるのかを明確にした上で実施していただきたい。3. 研究成果の学会発表等も積極的に実施されたい。4. 経費の積算精度が必ずしも高いとは言えず、効果的・効率的な研究遂行・費用削減に努めていただきたい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第47回新道路技術会議において審議したものである。